

2006 年度

科目名 日本文学講読IV	対象学科・学年 文学部日文1回生	担当者 高橋 圭一
授業テーマ 西鶴いいところ取り。		
授業の概要と目標 近世文学を代表するストーリー・テラー、井原西鶴の傑作短編を選びすぐって精読します。大坂の人は、西鶴の名前は割と知っているのですが、原文で読んだことのある人は少ないようです。もったいない話です。西鶴の作品は細部まで理解できれば、必ず面白く読めます。西鶴はバラエティーに富んだたくさんの作品を残してくれましたので、一篇一篇趣の違う話を並べることができました。楽しんでもらいたいと思います。		
評価方法 講義の最後に行う試験によって評価します。出席も加味します。		
テキスト 使用しません。作品ごとにプリントを配布します。	著者	出版社
参考書 授業中、随時紹介します。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1、西鶴の肖像、その生涯、代表作品など。 2、 続き。 3、西鶴が描こうとしたもの、『西鶴諸国ばなし』序から。 4、『万の文反古』巻二の三「京にも思ふやう成事なし」。結婚狂想曲。 5、 続き。 6、『武道伝来記』巻三の一「人差指が三百石が物」。天晴れ若衆。 7、 続き。 8、 続き。この章を扱った旧稿を紹介します。 9、『好色一代男』巻五の一「後は様つけて呼」。名妓吉野太夫、こんな遊女と・・・。 10、 続き。 11、『西鶴諸国ばなし』巻一の三「大晦日はあはぬ算用」。清貧な浪人たち。 12、 続き。 13、『日本永代蔵』巻一の二「二代目に破る扇の風」。金を貯めるは難し、使うは易し。 14、 続き。 15、 試験。		